

『国境 峠の杉に 矢をおさめ』



矢立杉

矢立杉は青森県と秋田県の国境にある天然秋田杉のことで、国境のシンボリック的存在です。名の由来には二つの説があります。一つは元慶4年（880年）、大館城主が津軽に軍を出し勝って兵を引き上げるとき、大杉の根元に弓一張、矢一双を立てて納めたので「矢立杉」。もう一つは、昔、津軽と大館が戦いの際に、大杉に矢を射立てて戦勝占いをしたので矢立杉。現在の矢立杉は平成23年に植樹された三代目です。

